

## 『すきなもの、なあに』

1年

— 具体物を見せながら紹介し、おたずねに答える —

### ■ 設定の趣旨

深まりのある対話的な学びを創るには、個々が自分の思いを積極的に、豊かに表現できることが重要である。しかし、「はずかしい」「間違っていたらどうしよう」などという思いをもつがゆえに、意欲的に自分の思いを話せない児童も少なくない。高学年になるほどその傾向が強くなり、対話が繋がらない、深まらないという悩みを担任が抱える学級もある。だからこそ、低学年の間に自分の思いを表現する機会を多く設定し、意欲的に発言したり表現したりする力を育てておきたい。自分の思いを表現することが「当たり前のこと」となるようにしたいものである。

また、「自分のすきなもの」を友だちに紹介するだけでなく、聞いている側の「おたずねする力」（質問力）も同時に育てたい。ただ聞くのではなく、「どういうことかな」「もっとくわしく知りたいな」「そこはどうなっているのかな」などの「おたずね」につながることを探しながら聞くことで、意欲的に聞く意識をもたせるのである。このことが、豊かな対話へと繋がっていくと考えている。

また、言葉で表現するだけでなく、写真や絵、可能ならば実物を見せることで、聞いている児童はより分かりやすく、より意欲的に聞くことができる。ここでは具体物を見せながら話すことにこだわりたい。

### ■ 指導目標

○言葉には、事物の内容や経験したことといった具体的なことを伝える働きがあることに気付くことができる。 【知識及び技能】

○自分の生活の中から友だちに紹介したい「すきなもの」を選ぶことができる。

【思考力、判断力、表現力等】

○わかりやすく伝えるように、書き表し方を工夫することができる。 【思考力、判断力、表現力等】

○「もっと知りたいこと」「不思議に思うこと」などを考えながら聞き、意欲的に質問をすることができる。 【思考力、判断力、表現力等】

○相手の話に関心を持ち、相手の発言を受けて話をつなげていこうとすることができる。

【学びに向かう力、人間性等】

■ 指導計画 (3 +  $\alpha$  時間)

次	時	学習活動	指導上の留意点と評価規準・評価方法
1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師の「すきなもの」の発表を聞き、「おたずね」についても知り、実際に教師におたずねをする。</li> <li>学級内で「すきなもの」の発表をし合うことを知り、自分の紹介する「すきなもの」を何にするかを考え、全体で交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物（できれば実物、用意できなければ写真や絵でもよい）を見せながら話すことの良さが伝わるようにする。</li> <li>友だちや先生の発表、お話を聞いて「わからないこと」「もっとしりたいこと」「ふしぎなこと」などを「おたずね」として意欲的に質問できるようにする。</li> <li>交流を通して、自分の「すきなもの」が決められない児童の参考となるようにする。</li> </ul>
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の作例を参考にしながら、自分の紹介する「すきなもの」（特徴：五感で、目・耳・鼻・手・心）とそのわけをノートに書く。 ウエビングツールのようなもので膨らませる。 さわったら→ふわふわ→きもちいい いろ→ まっしろ→ゆきのよう 等</li> <li>それ以外に紹介したいことがらがないか考え、あれば付け足し、自分の発表の原稿を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>たくさんすきなものの特徴を取材しておくこと（取材力）が、聞きたいことが生まれる観点にもつながる。そして、作例を参考にしながら、まず、その中から選び2文で書くことができるようにする。しかし、2文にこだわらない児童の工夫も奨励しながら、児童が考えた様々な工夫が、発表時の温かい学級の雰囲気として根付いていくようにする。</li> </ul> <p><b>【思・判・表】ノート</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の「すきなもの」について、作例を参考にしながらノートに発表の原稿を書くことが出来ているか確認する。</li> </ul>
2	3 + $\alpha$	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ずつ「すきなもの」の紹介を行い、おたずねにこたえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物を示しながら、わかりやすく紹介し、おたずねされたことに答えられるようにする。</li> <li>意欲的に発表を聞き、おたずねができるようにする。</li> </ul> <p><b>【思・判・表】観察</b></p> <p><b>【態度】観察</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○自分の「すきなもの」について、具体物を提示しながら、わかりやすく伝える工夫をしながら紹介できているか確認する。</li> <li>○「もっと知りたいこと」や「不思議に思う</li> </ul>

## わたしの授業

		こと」などを意識しながら発表を聞き、おたずねをしようとしているか確認する。
--	--	---------------------------------------

## ■ 指導のポイント

### 〈第3時（+α）の扱い〉

学習活動	教師の働きかけ
<p>1. 「すきなもの」を紹介する時のきまりを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人ずつ前に出てきて、みんなの方へ向いて発表すること。</li> <li>具体物を見せたり、絵に描いたり、実際にやって見せたり（動作化）すること。</li> <li>紹介が終わったら、みんなに対して、「おたずねはありませんか」と聞くこと。</li> <li>おたずねしてあげることが、聞いている人の大切な役割であるということ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カメラ等を使って具体物を大きく写すなどし、全体に見えるようにする。</li> <li>子ども同士でやりとりが進行できるようにする。</li> <li>友だちの発表や発言におたずねをすることが、大切な学習であるという意識をもてるようにする。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「すきなもの」の紹介をしよう。</div>	
<p>2. 「すきなもの」の紹介をする。</p> <p>発表者：すきなもののようすが目に浮かぶように紹介し、おたずねに答える。</p> <p>聞いている児童：進んでおたずねをする。</p> <p>（例）</p> <p>「私は犬を飼っています。この写真を見てください。名前は〇〇です。犬の種類は□□□□です。毛がふさふさでさわるときもちいいです。大きさは〇〇ぐらいです。散歩に連れていくのが大好きです。いつも近くの公園に行きます。おたずねはありませんか。」</p> <p>「その犬は何歳ですか」「〇〇歳です」</p> <p>「いつから飼っているのですか」「私が幼稚園の時からです」「何をして遊ぶのが好きですか」</p> <p>「私はピアノを習っています。家でも練習するのが大好きです。今日は、前に習った〇〇という</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おたずねされたことの意味が分からない場合や、答えを知らない場合の返答の仕方を増やしていけるようにする。</li> <li>「ここまではわかりましたが、ここがわからないので、もう一度言ってください」</li> <li>「それはわからないので、お家で調べてきます」</li> <li>「おたずね」の種類を増やしていけるようにする。</li> <li>「もっとしりたいこと」「わからなかったこと」「教えてほしいこと」「すごいなあとおもったこと」「自分の知っていることに繋げること」など</li> <li>実際にやって見せることも奨励する。</li> </ul>

## わたしの授業

<p>曲を弾きます。」 「いつから習っているのですか」「4歳からです」 「とても上手で、すごいなあと思いました」「ありがとうございます。」</p> <p>3. 本時の学習をふりかえる。 「心に残ったこと」「一番驚いたこと」 「感心したこと」「次のめあて」</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・「おたずね」はたずねたいことの他に、感想や良かったところを伝えることも含まれると理解できるようにする。</li><li>・学習をふりかえるとともに、自分の発表のイメージが持てるようにする。</li></ul>
---	---

## ■ 後記

教科書では、ペアやグループでの活動が設定されている。これにより短時間で全ての児童が紹介する活動が行える。効率的な方法ではあるが、この場合、教師は全ての児童の様子を把握することが難しい。そこでは話し方、聞き方の具体的な指導は行いにくい。また、豊かな対話力を育てるには、このような「話すこと」「聞くこと」の学習をスポット的に行うのではなく、年間を通し、児童の日常的に行う活動として位置付けることが重要であると考えている。具体的には、朝の会の活用である。発表者は名簿順や座席順などで全員に回るものとし、発表は一人ずつ、みんなの前で行うようにする。こうすることで、教師は発表者や聞いている児童の話し方・聞き方を指導することもできる。

また、多くの人前で発表する機会をくり返し得ることで、発表することに対する抵抗感をなくすことにも繋げられる。ぜひ1年生から始めたい活動であり、可能ならば6年生まで続けたいものもある。そうすることで、間違いなく児童の対話力は向上し、深い学びへと繋がっていくであろう。